

2025年1月8日

日本放送協会

## ラジオ国際放送問題を受けた再発防止の取り組みについて

NHKは、去年8月にラジオ国際放送の中国語ニュースで発生した事案を重く受け止め、9月10日に調査報告書を公表し、再発防止に取り組んできました。報告書に記載した「短期施策」については去年12月末までに全て完了しました。

2025年度は、中期的な改革に取り組み、“質的充実”とともに、リスク管理の向上を図り、ガバナンス強化を進めながら、国際発信を再強化し、「日本の視座」を発信していきます。

### <実施した主な短期施策>

#### ○ ラジオ・テレビ国際放送での緊急対応について

ラジオ国際放送の英語を除く16の外国語全てで、生放送ではなく事前収録して放送する形に変更しました（英語ラジオ国際放送は、英語テレビ国際放送の音声を生スルーで放送）。また、不測の事態に備え、「緊急時対応マニュアル」を作成し、全てのスタジオに配備するとともに、職員や制作スタッフを対象に緊急対応訓練を実施しました。ニュースの制作と収録には必ず職員が立ち会い、チェック体制を強化し、異変があれば速やかに統括以上に報告するなど、レポートラインを明確にして、組織として迅速に対応できる体制を構築しました。

英語テレビ国際放送でも、地震津波やJアラートを想定した訓練に加え、不測の事態を想定した緊急対応訓練を実施し、生放送中の緊急対応の手順を改めて確認しました。

#### ○ AIによる音声読み上げの試験運用

ラジオ中国語ニュースの放送にAI音声による読み上げを導入することを目指し、10月下旬にAI音声読み上げの試験運用を実施しました。読み上げの精度は良好で、AI音声に対する聴取者からの問い合わせ等もありませんでした。新年度、本放送での導入を目指します。

#### ○ 外部スタッフの理解向上に向けた説明会の実施

ラジオ国際放送と英語テレビ国際放送に携わる外部スタッフに対して、NHK国際番組基準と放送ガイドラインの英訳を配布するとともに、業務を担う上でのルールや方針を改めて徹底する説明会を繰り返し実施し、12月末までに全員を対象に終わりました。説明会では、NHKとの信頼関係を損なうような他メディアでの業務や情報発信を行わないことも徹底しました。コミュニケーションを緊密に行い、外部スタッフが不安を感じる場合は原稿の担当を変えるなど、柔軟な対応を行うことも併せて周知しました。

#### ○ 国際放送局内のガバナンス強化

9月上旬に、国際放送局内の全組織横断で「緊急改革プロジェクト」を立ち上げ、再発防止策の着実な実行を進めています。国際放送局の各業務の責任体制を明確にするるとともに、レポートラインを改めて確認・周知し、国際放送局全体のガバナンス強化に取り組んでいます。国際放送局の全ての管理職とデスク以上の職員を対象にリスクマネジメント研修を実施し、リスク管理意識と対応力の向上を図っています。

## ○ 「NHKグローバルメディアサービス」(「Gメディア」)との責任明確化

中国語ニュースなどの外部スタッフと直接、業務委託契約を結んでいるNHKの関連団体、「Gメディア」とNHK本体との責任の分岐点や役割分担を明確化し、あらゆる段階で緊密に連携することを記した契約書面を交わしました。また、リスクの芽を早期に摘み取るため、NHK本体とGメディアとの間で、より緊密にコミュニケーションをとり、相互に必要な情報の迅速な共有を徹底するなど、連携を強化しています。

## <2025年度の主な取り組み>

### ○ 再発防止策徹底のための“選択と集中”

制作体制・管理体制を強化するために、AIなど先端テクノロジーを活用して、国際放送全体において、より効率的な業務フローを構築するとともに、コンテンツの“選択と集中”を進めます。生み出された経営資源は、多言語ラジオの体制強化をはじめ、国際放送・ネットサービスにおける十全な編集体制の確立にあてるなど、再発防止策を徹底します。

### ○ 中国語ニュースでのAI音声読み上げの運用

ラジオ中国語ニュースでは、AI音声による読み上げの精度向上と試験運用を重ねるとともに、業務フローを確立し、2025年度当初から本放送での運用を目指します。他の一部の言語についても、2025年度中の導入を目指して、検討を進めます。

### ○ 適切な管理のための業務委託改革

外部スタッフの適切な管理や、緊急時などに迅速かつ的確に対応するため、Gメディアとの業務委託契約のあり方を見直し、外部スタッフとより緊密にコミュニケーションを取ることのできる業務体制を構築します。それにより、品質管理やリスク管理を徹底するとともに、ガバナンスを強化します。

### ○ デジタルを活用した“質的充実”による強化

短波や衛星で発信しているラジオ国際放送については、世界的な視聴環境の変化に合わせて、面的な拡大をするのではなく、サービスを絞りつつ、より充実した内容にしていくなど“質的充実”を図っていきます。デジタルもフルに活用して、多言語サービスを拡充していきます。

### ○ 2025年度の編集計画・編成計画に具体的に反映

2025年度の「国際放送番組編集の基本計画」や「国際放送番組編成計画」は、ラジオ国際放送の問題を重く受け止め、信頼回復に向けて、再発防止の徹底を実現するとともに、質的充実を図るための具体的な方針を反映する形で策定し、国際放送の使命を果たしていきます。

以上